

# 町村週報

(町村の購読料は会費)  
の中に含まれております)

## 3293号

毎週月曜日発行

発行所 全国町村会 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03-3581-0486 FAX03-3580-5955

発行人 横田真二：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110-8-4767

<https://www.zck.or.jp/>



太陽を浴びる赤い宝石「<sup>しんく</sup>神紅」(島根県<sup>おおなんちやう</sup>邑南町) [提供：邑南町役場]

### もくじ

随 想	情 報	フ ォ ー ラ ム	活 動
「生まれて良かった住んで良かった聖籠町」………	「生まれながら良かった住んで良かった聖籠町」………	「生まれながら良かった住んで良かった聖籠町」………	「生まれながら良かった住んで良かった聖籠町」………
新潟県聖籠町長 西脇 道夫…(11)	新潟県聖籠町長 西脇 道夫…(10)	新潟県聖籠町長 西脇 道夫…(3)	新潟県聖籠町長 西脇 道夫…(2)

### 写真キャプション

シャインマスカットとベニバラードを掛け合わせた、島根県オリジナルの希少なブドウ「神紅」。その産地として知られる邑南町は、広大な山林や清流に恵まれ、自然を生かした農業が盛んな町である。ブドウやサクランボ、ブルーベリーのほか、石見ポークや町で育てられた「邑南野菜」、日本酒等の多種多様な特産品がある。

## コラム

### 地域おこし協力隊と新規就農者育成

農業ジャーナリスト・明治大学客員教授 榊田<sup>さかき</sup>みどり

地域おこし協力隊を新規就農者の確保・育成事業に活用できると私が気付いたのは、2018年。山口県萩市で、隊員のひとりが出会ったときだった。

調べてみると、その4年前には、すでに島根県邑南町が地域おこし協力隊を活用した農業研修制度をスタート。新規就農希望者を「おーなんアグサポ隊」と名付けて募集し、合同会社「アグリサポートおーなん」の研修農場での研修体制を整えていた。

他にも、鳥取県日南町、広島県三次市、北海道新冠町、岩手県遠野市など、自治体が地域おこし協力隊を活用して地域農業の担い手を確保・育成するケースは増えており、新規就農支援ルートのひとつとしての認知は徐々に広がっているようだ。

農水省の農業次世代人材投資事業は、専業主業が前提で、就農しなかった場合は資金を返還しなければならない。地域おこし協力隊の場合、就農しなくても資金返還の義務はなく、専業主業か半農半X型就農かも、自ら選択できる自由がある。

いわば、地域おこし協力隊としての農業研修期間は、地域での暮らしのリアルを経験し

てもらうと同時に、本人の農業への適性を判断する猶予期間にもなる。専業主業をめざすなら、任期終了後に農業次世代人材投資事業を活用することも可能だ。

新規就農の多様性や裾野を広げるうえでも、もっと取り組む自治体が増えるかと思いきや、筆者の予想ほどは広がりを見せていない。理由として、行政の農林部署やJAなどで、まだまだ新規就農ルートとしての認知度が低いこともありそうだが、一方で「就農率が低いのでは」という懸念の声も聞こえてくる。

心算のハードルが低い分だけ、たしかに集まる人材は玉石混濁かもしれない。ただし、就農しなくても地域人材として活躍する可能性もある。また、研修から就農への道筋を「見える化」し、育成プログラムを充実させることで、就農率を上げることも可能ではないだろうか。

その点で、行政とJAとの連携も重要な要素だ。実際、前出の先進地でも、JAと行政が連携して実践的な研修プログラムを組み、任期後スムーズに就農につながる環境を整えているケースもある。後継者確保は、行政とJA共通の課題。まずは話し合いの場を設けてはどうだろうか。

活 動

地方六団体

# 吉田会長が自由民主党 総務部会関係合同会議に出席

吉田隆行会長（広島県坂町長）をはじめとする地方六団体の代表者は8月27日、自由民主党が開催した総務部会関係合同会議に出席した。会議では、令和7年度総務部会関係予算概算要求および税制改正要望のとりまとめに向けて要望が行われた。

地方六団体を代表して、村井嘉浩全国知事会長（宮城県知事）が要望内容を説明した。

社会保障費の一層の増加が見込まれるなかで、地方が安定的に行政サービスを提供できるよう、令和7年度においても、一般財源総額について、令和6年度地方財政計画と実質的に同水準を確保し、充実させるよう要望した。なかでも、令和6年人事院勧告に準じた給与改定等を適切に実施できるよう財源確保を図るとともに物価高や民間の賃上げ等に伴う人件費、行政サービス・施設管理等の委託費、公債費等の増加を確実に措置することを求めた。

人口減少対策および地方創生の強力な推進については、政策を統括推進する司令塔組織の設置など、対策の強化を図っていくよう要望した。そのうえで、ことも・子育て政策については、全国一律で行う施策のさらなる強化と

地方負担分も含めた財源の確実な確保、地方の実情に応じてきめ細かに行う施策に必要な地方財源の長期的・安定的な確保・充実を求めた。また、「地方創生推進費」や「地域デザインル社会推進費」の拡充・継続や、地方団体の標準準拠システムへの移行経費に係る財政支援、地方の負担軽減となるガバメントクラウド利用料の設定等について配慮を要望した。

防災・減災対策の推進と強靱な国土づくりについては、資材価格の高騰下であっても、現りか年加速化対策を着



▲出席する吉田会長

実に実施するため、例年以上の規模で予算を確保するとともに、国土強靱化実施中期計画の令和6年内の早い時期の策定、現対策完了後も継続的、安定的に必要な予算財源を確保することを要望した。

このほか、「緊急浚渫推進事業債」の制度延長や税源の偏在性が小さく税収が安定的な地方税体系の構築等を求め、発言を締めくくった。

その後、松本総務大臣が挨拶に立ち、「一般財源総額の確保については、人件費の増加や物価上昇に伴うコスト増、ことも・子育て政策の地方独自の取組も含め、来年度地方財政計画において財源確保に努めていく。緊急浚渫推進事業債等の節目を迎えるものについてもしっかりと対応したい。地域経済の好循環と持続可能な地域社会を



▲発言する松本総務大臣



現するため、地方行財政基盤を確立し、地域経済・社会を活性化させる政策を進めていく」と述べた。

※参考資料は全国町村会HP (<https://www.zck.or.jp/>)をご覧ください。

フォーラム



▲木曾川河川敷に広がる 笠松みなと公園

岐阜県  
かさまつちよう  
笠松町



小さな町のポテンシャルを活かして  
「選ばれる町」をめざす

1. 笠松町の概要

笠松町は、濃尾平野の北東部、岐阜県南西部に位置し、木曾川右岸に沿って帯状に広がっています。西に養老山脈と伊吹山、北には金華山、さらに晴れた日は遠く御岳山や白山が眺望できます。岐阜市、各務原市、羽島市、岐南町に隣接し、木曾川を隔てて愛知県一宮市とも接しており、岐阜県の玄関口としての役割を担ってきました。町の面積は10・3km<sup>2</sup>で、県内42市町村中3番目に小さく、その約3分の1を木曾川と河川敷が占めています。人口は約22,000人(令和6年6月現在)、県内でも有数の人口密集地になっています。人口規模は約30年間横ばいで推移しています。

当町の歴史を紐解くと、古くから水陸の交通の要衝として発展し、木曾川を通じて岐阜と名古屋を結ぶ重要な地でした。江戸時代には幕府直轄地・天領として美濃郡代笠松陣屋、明治維新後は笠松県が置かれ、明治6年3月に現在の岐阜市へ移行するまで県政を執った岐阜県政発祥の地です。明治22年7月の町制施行により笠松町となり、その後、松枝村、下羽栗村と合併を経て、今日に至ります。令和10年には、町政140年を迎える岐阜県でも古い町のひとつです。

2. 歴史と文化の町

笠松町では長い歴史の間に多くの文化や伝統芸能が育まれてきました。その代表格が県重要無形民俗文化財にも

指定されている「奴(やつこ)行列」です。毎年4月の春まつりには、役場近くの本町通りから八幡神社、産霊神社まで行列を成して披露されます。「サー・サヨン・ヤナー、コラ・コラサーのサー」という独特の掛け声とともに鮮やかな手さばぎで毛槍を投げ渡しながら練り歩く様子は見物客を魅了します。奴行列は、幕府直轄の陣屋が置かれていた経緯から郡代を大名と同格と考え、江戸時代後期から始まったという言い伝えがあります。

当町には、もうひとつ県重要無形民俗文化財に指定されている「芭蕉踊(ばしょうおどり)」があります。円城寺地区に江戸時代から伝わる雨乞いの踊りで、毎年8月22日の夜に秋葉神社で



▲奴行列



▲芭蕉踊



▲ハートの木

披露されています。二人一組で、一人は竹に紙を付けた芭蕉の葉に見立てた飾りを背負い、腹に太鼓を備え、もう一人はすり鉦(がね)を持ち、「ヤラー東西しすまね唄おろそ あまりの日照りがかなしさに…」と唄いながら踊ります。現在は、主に地元の小学生たちが演じています。

これらの行事は、地元の住民でつくる保存会が中心になって伝承されてきましたが、最近では担い手や後継者の不足という問題を抱えています。背景には、昔と比べ地域の絆が薄くなった、少子高齢化で参加者が減っているなど社会的要因が色濃く影響しています。文化は伝承しなければ廃れてしまいます。そのためにも子どもたちに学

校の授業などで町の歴史や文化を学び、関心を持ってもらう機会を増やすことが重要です。町でも保存会と協力しながら、変えるべきところは変え守るべきところを守る「不易流行の精神」で取り組んでいきます。

**3. 木曾川の豊かな自然を活かしたまちづくり**

笠松町では、長い歴史に培われた伝統を大切にする一方で、若い人たちが民間による新たなまちおこしの機運が醸成しつつあります。その主な舞台として活用されているのが桜並木や「ハートの木」で売り出し中の笠松みなど公園です。みなと公園では、町主催の「リバーサイドカーニバル」や町

商工会青年部有志らでつくる笠松町プロモーション協会による「かさマルシェ」をはじめ、一年を通して多くのイベントが開催されており、今年3月には国土交通省から「都市・地域再生等利用区域」に指定されました。この指定に伴い、常に河川敷でのキッチンカーや物販ブースなどの営利活動が可能になり、よりいっそうの経済効果や交流人口の増加が期待できるようになりました。町でもさらに魅力度を向上させるため園内に花を植えたり、イベントの様子をSNSなどでPRしていきます。

また、みなと公園と天然ビオトープである笠松トンボ天国を結ぶ約5kmの



▲リバーサイドカーニバル

## フォーラム

サイクリングロードも貴重な観光資源です。週末になると、多くのサイクリストが訪れ、笠松競馬場や木曾川を眺めながらライドを楽しんでいます。各務原市や愛知県側のサイクリングロードともつながっているため、木曾川一帯を自転車の聖地とすべく、国交省や周辺自治体との連携を強めていきたいと考えています。



▲笠松トンボ天国

さて、笠松町を紹介する際に真っ先に思い浮かぶのが笠松競馬場です。昭和9年に誕生、90年の歴史を誇る全国屈指の地方競馬として知られています。当町は、岐阜県、岐南町とともに競馬場を管理運営する岐阜県地方競馬組合を構成しており、名実ともに深い結びつきがあります。その長い歴史もさることながら、笠松競馬は多くの名馬や名騎手を輩出してきました。その代表格が、「あし毛の怪物」としてG1レース4勝を制したオグリキャップや2度の「NARグランプリ年度代表馬」に輝いたラブミーチャンです。笠松競馬に所属していた騎手の安藤勝己さん

近年は、気候変動や外来種の増加により、トンボの種類も数も減りつつあります。こうした中、令和4年3月に専門家や住民有志による「笠松の自然と共生を考える会」が発足。現地調査や観察会を通じて環境保全や外来種の問題に取り組んでいます。住民主体による活動は、町民の環境問題への関心を高めるだけでなく、子どもたちの情操教育にもプラスになるでしょう。笠松町は、木曾川とともに暮らし、発展してきた地域です。これからも川を活かしたまちづくりを積極的に進めていきます。

## 4. 町のシンボル笠松競馬場



▲笠松競馬場

は、中央競馬に移籍後も順調に勝ち星を重ね、「アンカツ」の愛称とともに全国にその名を轟かせました。こうした栄華の一方で平成の時代にはバブル経済崩壊の影響で売り上げが低迷、一時期は廃止の瀬戸際に追い込まれました。その危機を救ったのは、関係者たちの血のじむような努力とインターネットによる勝馬投票券(馬券)販売開始です。さらに最近、ゲームやアニメで人気の「ウマ娘」がブームになったのをきっかけにサブカルチャーファンからも注目を浴びています。組合では、ウマ娘人気にあやからうと春に特別協賛レースを実施、笠松町でもコスプレイベント「仮装の宴」



▲仮装の宴

を主催するなど、新たなファン獲得に力を入れています。特に「仮装の宴」では、全国からウマ娘の衣装に身を包んだファンが訪れ、写真を撮ったり、競馬場グルメを堪能したりと大いに盛り上がりしました。その様子は参加者らのSNS上でも拡散され、#笠松競馬や#笠松町の知名度向上に貢献しました。今後関係機関と協力しながら競馬の発展に寄与してまいります。

## 5. 小さな町だがポテンシャルは高い

笠松町は小さな町ですが、県内でもポテンシャルが高い地域だと自負しています。そのひとつが交通の便です。



▲子どもの権利に関する条例制定に向けた小中高生からの意見書



▲名鉄電車

町内には、名鉄(名古屋鉄道)の特急電車が停まる名鉄笠松駅と東海道新幹線岐阜羽島駅に繋がる名鉄竹鼻線の西笠松駅の2つの駅があります。名鉄笠松駅は、名古屋(名鉄名古屋駅)まで23分、岐阜市(名鉄岐阜駅)まで5分と、利便性が良いことから通勤通学客を中心に一日の乗降客は約8千人と多くの人が利用しています。

このほかの地域公共交通としては、駅や役場や病院などを回るコミュニティバス(一乗車100円)を運行しており、年間約8万人が利用しています。さらに令和3年10月からは町民バスの路線空白地域を中心にデマンドタク



▲コミュニティバス (公共施設巡回町民バス)

最後に笠松町の抱える課題について述べたいと思います。それは活用できる土地が少ないという点です。前述したように町の面積は10.3km<sup>2</sup>で、うち約3分の1が河川敷です。さらに南部には開発に制限が掛かっている市街化調整区域が広がっており、住宅や工場、商業施設などを建てられる土地が慢性的に不足しています。それが地域経済の発展や人口減少対策にとって大きな足かせになっています。

厳しい現況下で、期待を寄せている

「チョイソコカラタン」の運用も始まっており、きめ細かい町民の足の確保に努めています。

また郷土愛が強い土地柄も自慢です。町では平成19年に「道徳のまちづくり条例」を施行。町民有志らによる「道徳のまち笠松推進会議」が中心となって、学校や町内会と連携しながらあいさつ運動や清掃活動などを実施しています。また令和4年には「子どもの権利に関する条例」を施行しました。これは「安心して生きる権利」「のびのびと育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つの権利を柱に子どもたちの自主性を尊重した内容で、同年にオープンしたこども館の運営理念にもなっています。

### 6. 土地不足解消のための取組

このようにした取組で開発可能な土地が増えれば、町に人と税収を呼び込む環境が整うはずですが、そこに町のポテンシャルを活かしたブランド化を組み合わせれば、「高収益」の町の実現も夢ではありません。財政が豊かになれば福祉や教育もさらに充実し、もっと住みやすい、全国有数の「選ばれる町」になれると確信しています。

あわせて空き家対策にも本腰を入れています。全国的に空き家の増加が問題になっていますが、町では空き家をリノベーション、もしくは適正に売却することで新たな住宅や店舗へと変えていきたいと考えています。すでに空き家対策の専門家からの協力を得て、定期的に空き家相談会を開催しています。今年度は空き家の実態調査を実施し、新たな施策へと結びつける方針です。

岐阜県笠松町長 古田 聖人

## 情 報

# 地域力の強化に向けた 全国市町村長サミット2024 in 千葉の開催について

〈主催：総務省・千葉県〉

全国の市町村長等が一堂に会して議論・交流を行うことを通じて、地域活性化の一層の進展・普及を図ることを目的に、地域力の強化に向けた全国市町村長サミット 2024 in 千葉を開催します。



11月5日（火） サミット 場所：幕張メッセ国際会議場（千葉県千葉市美浜区中瀬2-1）

13:00～13:20	<b>開会挨拶</b> 総務省挨拶／千葉県挨拶
13:20～14:20	<b>基調講演</b> 「地域 DX の推進」 講演者：庄司 昌彦（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授・武蔵学園データサイエンス研究所副所長）
14:40～17:20	<b>分科会</b> 2つのテーマの分科会に分かれ、各分科会のコーディネーターと発表される市町村長の方々に、取組み事例の発表と意見交換を行っていただきます。
<b>第1部</b> 14:40～15:50 第一分科会（会場①） 第二分科会（会場②）	<b>第一分科会</b> 「多様な人材の活用」 コーディネーター：指出 一正（ソトコト編集長） 事例発表者：井崎 義治（千葉県流山市長）、片山 健也（北海道ニセコ町長）、 富田 能成（埼玉県横瀬町長）、中山 泰（京都府京丹後市長）
<b>第2部</b> 16:10～17:20 第一分科会（会場①） 第二分科会（会場②）	<b>第二分科会</b> 「少子化対策」 コーディネーター：秋田 喜代美（学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授） 事例発表者：米本 弥一郎（千葉県旭市長）、森田 浩司（奈良県三宅町長）、 奥 正親（岡山県奈義町長）、横山 幾夫（高知県安芸市）
17:40～18:50	<b>市町村長交流会</b> 市町村長等による意見交換、情報交換の場として交流会を実施します。（参加費 6,600 円）

11月6日（水） 現地視察 ※半日コースと1日コースがあります。

★高円宮記念 JFA 夢フィールド 集合	
①高円宮記念 JFA 夢フィールド	
②千葉公園	
半日コースは②で終了 ※千葉駅にもどり解散	
一日コースは③へ	
	③保田漁協ばんや ※昼食 (1,500 円)
	④都市交流施設 道の駅保田小学校・附属ようちえん
	⑤鳥居崎海浜公園
	★終了・解散 木更津駅→羽田空港→東京駅

※お申し込みは、専用サイトからお願いいたします。【URL】 <https://www.summit2024-chiba.com/>

## 問合せ

総務省地域力創造グループ地域振興室 担当：野上課長補佐、平岡事務官  
電話：03-5253-5534 Mail：k.hiraoka@soumu.go.jp



## 日本も元気にする JICA海外協力隊

JICA海外協力隊は途上国の課題を解決し地域の人々を元気にしてきました。世界を元気にしてきた協力隊経験者は日本の町村も元気にします。本誌では令和元年8月から令和2年8月の間に5回掲載。今回は第2弾企画のその3として埼玉県横瀬町を元気にするJICA海外協力隊経験者を紹介します。

### JICA海外協力隊経験者が 地域おこし協力隊に

埼玉県横瀬町は豊かな自然に囲まれた地であって、都心から電車で70分という利便性も備えている。人口は7,700人強、人々のつながりを支える密なコミュニティがある。この規模の町ならではのスピード感ある行政が実施できるなど数々の利点がある一方、人口減少などの課題もいろいろだ。横瀬町長の富田能成氏は話す。

「このなるチャレンジが必要になってきた時代です。チャレンジとは精神論によるものではなく、(人口減少が続く)このままではいけない状況だから必然的にチャレンジが必要ということ。行政運営も、もはや経験だけでは進まない時代になってきました。チャレンジを継続していけば、それは人を呼び込むポジティブなスパイラルを生みます」

町をオープンにして、ヒトもモノもお金も情報も呼び込んでいく、その仕組みづくりの途上にあるという。

町の抱える課題解決の一助となるべく、活動を進めているのが地域おこし協力隊の隊員だ。富田町長は隊員希望者を見るときに「実現したいことはあるか。思いはあるか」を大事にしているという。横瀬町には、

それらの気持ちに応える素地があるのだ。

横瀬町では18名の地域おこし協力隊が活動している。そのうち3名は、JICA海外協力隊の経験者。開発途上国で培ってきた力を、さらに日本の地域で活かして働いている。その経験は富田町長も評価するところである。

今回は、全国でも初めてというウェルビーイングの普及・啓発活動を行っている近藤保子さんを紹介する。西アフリカのセネガルでの活動経験を有する、協力隊経験者だ。

### 現地の先生方を尊重しながら セネガルで幼児教育活動

近藤さんは愛知県岡崎市出身。最初のキャリアは、地方公務員として幼児教育に携わってきた。その後、ニュージーランド等海外生活を経て、これまで培ってきたスキルや経験を人の役に活かしたいという思いから、青年海外協力隊に応募。

2011年からの2年間、セネガルにて幼児教育の活動を行った。

現地では、「知識習得型」の幼児教育が展開されていた。そのため、こどもの主体性を大切にしたい日本の「こども中心型」の幼児教育を技術移転するにあたり、現地の先生方が大事にしている教育方針やニーズを尊重



大学院時代、5年ぶりに子どもたちと再会

しながら活動を継続していった。

活動当初、協力者も限られていたが、こどもたちや協力してくれた先生のクラスが良い方向に変化していく様子を見て、次第に近藤さんと活動したいという先生が増えていった。結果を出すことで現地の先生からも評価され近藤さんへの信頼につながっていった。こども、保護者、先生方の喜びにつながる「幸せの循環活動」を重視したと近藤さんは話す。

それがやがて「情操教育発表会」という参加人数600名にのぼる大規模イベントの開催となり、成功につながった。活動先の教育委員会からは、日本人で初めて現地の教育に貢献した一人として表彰も受けた。

「現地のごもたちや先生たちに喜んでもらえる活動が少しでもできた

情 報



【伝統行事】TEAM 横瀬／秩父夜祭御神幸行列に参加



【伝統行事】横瀬町宇根地区にて秩父夜祭新穀奉獻祭に向けた神饌田御田植祭の様子



【地域活動】10周年記念！大好きな高齢者サロンの皆さまとの集合写真

横瀬町地域おこし協力隊 ウェルビーイング担当になる

ことがとっても嬉しかったです」

2年間の活動を終えて帰国後は、国際協力と地域をつなぐ仕事に従事。同時に、セネガルの幼児教育について研究したいと考え大学院へ進学。修了後、職務経験を経ていくなか

で、2023年3月に横瀬町の地域おこし協力隊として着任。要請は、全国でも初となる「ウェルビーイングの普及・啓発」というものだった。ウェルビーイング (well-being) と

は、英語のwell (よく) + being (状態) からの言葉で、世界保健機関 (WHO) では「肉体的にも精神的にも社会的にも満たされた状態にあること」と等とされる。

新型コロナウイルス感染拡大の渦中において、近藤さんは大切な人の死と向き合うことになった。これをきっかけに、明日、命がなくなっても悔いのないよう一日を一生と思う「一日一生」で生きることを誓ったという。こうした経験からも、ウェルビーイングは、近藤さんの人生の中でも大事なテーマになっていた。

外部からの視点をもって見えてくるもの

ウェルビーイング通信『ぬくとま

る(秩父弁であたたまる)」発行も近藤さんの活動のひとつ。「読む人の心がほっと温かくなるように」との想いをタイトルに込めた。

発行は、毎月紙媒体とその都度Web媒体の公式SNS「note」を利用し発信している。また、紙媒体は毎戸配布されコミュニケーションツールとしても活用されている。

内容は、横瀬町内23区の各区長をはじめとした「一人ひとりの幸せとはなんですか」に焦点を当てたインタビュー記事や、横瀬町外から来た近藤さんだからこそ見える横瀬町の魅力や横瀬町の日常で感じる幸せこそが、ウェルビーイングなのだと呼ぶる誌面や記事になっている。

横瀬町では行きかう人々が自然に「こんにちは」と挨拶を交わしている。それも外からの視点で見れば素敵な町の習だ。

去る12月、近藤さんは日本三大曳山祭のひとつである秩父夜祭にて、横瀬町の高張提灯を持つ役目をもらい、御神幸行列に参加することになった。それは大変な名誉であり、貴重な機会であるからして厳正な選定であったこと。推薦は、横瀬町で大変お世話になっている町民の方によるものだった。「はじめての秩父夜祭でこのような大役をいただき、無事役目を果たせるのかと不安と緊張で

いっぱいだった」とのこと。

「私は、ユニークなキャリアを築いてきたからこそ、古き良き文化と挑戦する新しい文化の両方にこそ価値があると考えています。横瀬町にはこの両方がある。これからの日本が目指す最先端の町だと私は考えています」と近藤さんは話す。

JICA海外協力隊からの経験を重ねて、それらを活かす場として横瀬町地域おこし協力隊に至った近藤さん。まだまだチャレンジは続いている。「執筆者：独立行政法人国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊事務局」

JICA 海外協力隊経験者へのエール

横瀬町長 富田能成氏

協力隊経験者には、開発途上国で培ってきた異文化対応力、レジリエンスがあります。知らない文化の場に身を置いても、多様性に対する許容度が深い。日本においても、幅広い世代の人々の中にも入っていただけますし、地域の行事を通してコミュニティの輪にも入っている。すごいことです。



# 町村

# ご当地キャラじまん

Vol.151

特産品だけじゃない!

文化・歴史を身にまとして観光大使!!

ご当地自慢の美味しいものや伝統行事を身にまとい、体を張ってPRしているご当地キャラたちを紹介するコーナーです。今回は、中ブロック(北信・東海・近畿)からピックアップ。



中ブロック



妖精界ひかり目たる科びつかり属に分類されるゲンシホタルの妖精で、「ほたる祭り」の最初の日曜日生まれ(妖精歴なので変動あり)。元気に動き回る割に、意外とシャイ。あま〜いお水」と「ほたる饅頭」が大好き。和食好みの甘党。



辰野町イメージキャラクター

ぴっかりちゃん

長野県辰野町

1998年に誕生した「ぴっかりちゃん」は、辰野町の特別シンボル「ゲンシホタル」がモチーフです。触角は、時代を読み取るアンテナであり、困っている人を見つめるセンサー。お尻の光は、「勇気」と「やさしさ」をエネルギーにした夢を叶える光が物体化したものなのだとか。町民からの人気は高く、ぬいぐるみやトートバッグ、ポロシャツ等、さまざま「ぴっかりちゃん」グッズが販売されています。役場職員ですら所持者のいない『第1級辰野町セールスリーダー』と「ほたるの里売りまくりスペシャリスト」の2つの資格を持ち、日夜町に元気を、町民に笑顔をお届けしている「ぴっかりちゃん」。全国の自治体で唯一「辰」がつく辰野町。今年の今年は特に気合を入れて、SNS等で毎日、「日本のご真ん中辰野町」をPRしていきます。

坂祝町マスコットキャラクター

ほぎもん

岐阜県坂祝町

坂祝町制施行50周年を記念して「さかほぎ」をイメージしたキャラクターデザインを公募し、2018年3月に誕生した「ほぎもん」。モチーフは猿で、自然豊かな町に長い間住んでいることから、体毛が鮮やかな黄緑色になったのだとか。細かい細工が美しい「鬼瓦帽子」は町の特産品を、赤い鼻は町木「南天」の実を表現。町花である「サルビア」柄のちゃんちゃんこを羽織り、首に巻いたマフラーは「日本ライン川(木曾川)」を模しています。同年10月7日に坂祝町中央公民館において初登場してからは、町のPR活動で活躍。毎年11月の第3日曜日に開催する「さかほぎ町民まつり」に出演するほか、町公式インスタグラムにも頻りに登場します。これからも坂祝町の知名度向上のために、愛くるしい笑顔で活動を続けます。



坂祝町に古くから住む猿の男の子。ファッションにこだわってお洒落さん。子どもたちと遊ぶのが大好きで、いつも坂祝町のみんなと遊びたいと遊んでいる。町が見渡せる「猿はみ城展望台」が気に入って、自分のことを「さん」

11月3日生まれ。清楚で落ち着いた雰囲気であるが、好奇心旺盛で活発な一面を持つお姫さま。チャームポイントは、人のこころを和ませる優しい笑顔。片岡城の佐鞆姫のように、まちのみんなに慕われる大人になりたいと願っている。



上牧町PRキャラクター

ゆりはちゃん

奈良県上牧町

「ゆりはちゃん」は、町制施行50周年を記念して誕生したキャラクターです。上牧伝説「片岡城笹ゆり姫物語」の主人公である「佐鞆姫(さいひめ)」をモチーフとしたデザイン案3案の中から、町内小中学生の投票によってデザインを決定し、名前も公募により寄せられた中から選び、名付けられました。2022年11月3日にお披露目された「ゆりはちゃん」は、中世の時代、「佐鞆姫」が大切に育てていたとされる「ササユリの花」が長い年月をかけ、姫の意思を受け継ぎ、姿を変えて舞い降りたとされています。上牧町で作られた雪駄を履いてお散歩するのが大好きな「ゆりはちゃん」。毎年、11月3日の「ペガサスフェスタ」や3月の「ユキウツ祭り」等、まちのイベントには積極的に参加するほか、上牧町の知名度の向上や観光振興のために、日々活動しています。

次回は、西ブロック(中国・四国・九州・沖縄)からご紹介します

随 想

はじめに、町の紹介をさせていただきます。

聖籠町は、新潟県北部に位置しています。飯豊連峰に源を発する加治川の下流にあり、穀倉地帯でもありません。面積は37・58km<sup>2</sup>、人口約14、000人の小さな町で、北は日本海、東と南は城下町新発田市、西は政令指定都市である新潟市に接しています。

私も聖籠町は、昭和30年に聖籠村と亀代村が合併し、現在の町域となり、昭和52年8月1日に町制施行

一方で、国際拠点港湾となる新潟東港の背後に新潟東港工業地帯があり、電気、食品、電子機器など約190社の企業が操業しています。

この新潟東港開発には、当時大島の集落に暮らす482世帯もの集落移転によって事業が進められました。このことが、今日まで続く聖籠町の発展に大きく寄与したことは言うまでもありません。

さて、未来に話を向けますと、国立社会保障・人口問題研究所が20

大、公共施設の老朽化などの問題があります。

それらに対処しながら、子どもから高齢者まで活力ある安全で安心な地域社会の構築と維持が必要となっていくことから、限られた財源の中で、「子ども・新しい教育への投資」、「福祉への投資」、「未来へつながる投資」の3つの投資を行い、未来に希望もてる持続可能なまちづくりを行っているところです。

このことが、令和3年に策定した



「生まれて良かった 住んで良かった聖籠町」

新潟県聖籠町長

西脇 道夫

し、新潟県で54番目の町として誕生しました。

自然豊かな環境で、おいしい米がつくられる田園や、砂丘地で栽培されるぶどうやさくらんぼなどの果樹栽培も盛んで、果物を収穫し、その場で食べられる観光果樹園にも多くのお客さまが訪れています。海岸ではサーフィンなどのマリンスポーツやアジ、カレイ、キス、クロダイなど種類豊富な魚釣り、夏は海水浴客にぎわいを見せています。

20年を基準とした、将来の人口推計を公表し、少子高齢化がさらに厳しさを増す状況が明らかとなりました。幸いにも聖籠町は、現在30代・40代のいわゆる生産年齢人口が多いことから、30年後においてもそれほど人口減少しないという推計でしたが、決して楽観視はできない状況です。

国全体に関わる大きな課題とはいえ、聖籠町においても将来的に予想される医療・介護に要する費用の増

しました第5次総合計画に掲げる基本理念でもある「生まれて良かった住んで良かった聖籠町」につながるものと考えております。

聖籠町は、前述にあります新潟東港開発により、多くの税収と雇用が創出され、昭和59年度からこれまで、不交付団体として、行財政運営を行ってきたところでありました。私自身、町役場職員として財政が今より豊かであった頃を経験してきました。ところが、その状況が未来永劫

続けばいいのですが、なかなかそうはいかない。税収が段々と減り、町の財政は徐々に厳しい状況となっていく中で、このままでは、町の未来を担う子どもたちに負担が残るのではないかという思いがありました。

平成30年に町長に初当選し、これまで先送りにされてきた安心安全のための施設改修を、まずは最優先に行ってまいりました。また、その財源を確保するため、行財政改革として事業の統廃合などを行ってまいりました。

令和4年度に2期目の再選をさせていただき、2年が経ちますが、「動き始めた変化を止めない」という決意のもと、引き続き財政の健全化・財源の確保に努めるとともに、町民一人ひとりの幸福度を高める取組を進めてまいります。

幸福度を高めるためには、ここからとからだ健康であることや生きがいがあることが基本となります。町民の皆さまがここからからだの健康づくりに取り組んでいけるよう、さらには生きがいをもち、一人ひとりの幸福度やウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)が高まっていくよう、福祉・保健・生涯学習など健康づくり、生きがいづくりに関係するさまざまな分野から、町の取組について検討を進めていきたいと考えています。

# ハロウィンジャンボ

# 5億円

1等・前後賞合わせて  
1等3億円、前後賞各1億円

当さんの  
チャンス広がる!

# ハロウィン ジャンボミニ

# 5千万円

1等・前後賞合わせて  
1等3,000万円、前後賞各1,000万円



この宝くじの収益金は市町村の  
明るいまちづくりや環境対策、高齢化  
対策など地域住民の福祉向上の  
ために使われます。

パソコンや  
スマホで  
ネット購入!



宝くじ公式サイト <https://www.takarakuji-official.jp/>

## 9月17日(火)同時発売

発売期間/9月17日(火)~10月17日(木) 抽せん日/10月25日(金)

2024年新市町村振興宝くじ 一般財団法人 全国市町村振興協会 各1枚300円